

令和5年度 第1回室戸市総合教育会議議事録

1. 日 時 令和5年6月23日（金）午後4時～

2. 場 所 室戸市役所3階 第6会議室

3. 出席者

（構成員）

室戸市長 植田 壯一郎

室戸市教育委員会

教育長 百田 貴昌

教育委員 多田 明美

教育委員 佃 美保

教育委員 和泉 久美子

教育委員 植野 真由美

（オブザーバー）

総務課長 濱田 亮士

こども子育て支援課長 辻 さおり

（事務局）

学校教育課

課 長 山本 康二（教育次長）

主 監 小松 武志

課長補佐 村上 久美

学校教育班長 高崎 正太

生涯学習課

課 長 和田 美紗子

課長補佐 山中 靖

生涯学習班長 原山 博敬

4. 欠席委員 なし

5. 議事

(1) 室戸市教育振興基本計画における令和5年度事業実施計画について

(2) 協議事項

① 保育所及び学校適正規模・適正配置実施計画について

6. その他

① グリーンカーボン取組について

（小松主監）

ただ今より令和5年度第1回室戸市総合教育会議を開会いたします。私、学校教育課の小松と申します。今回も昨年度の総合教育会議と同様に、市長と教育委員の皆様の協議

に重点を置くため、市長が議長を務めずに事務局の方で進行させていただきますので、どうぞよろしくお願いいいたします。それでは、会議次第に沿って進めさせていただきます。1 開会、市長挨拶。植田市長より挨拶をお願いします。

(植田市長)

皆さんこんにちは。今日は第 1 回となります総合教育会議を開催いたしましたところ、教育委員の皆様にはご出席をいただきましてありがとうございます。また日頃から室戸市の教育行政の振興発展にご尽力いただきますとともに、市政運営にはなにかとご指導、ご支援賜っておりますことを改めてお礼申し上げる次第でございます。この総合教育会議は、市長部局と教育委員会が市の教育の課題、そして目指すべき姿を共有した上で、意見交換を行い、本市の教育行政に活かしていく場所でございます。本日の課題は、室戸市教育振興基本計画における令和 5 年度事業と保育所及び学校適正規模・適正配置実施計画(案)についてでございます。特に南海トラフ地震の脅威から子どもたちの命を守り少子化による教育課題の解決のため、学校の適正規模・適正配置につきましては、令和 2 年度から検討を始め、検討委員会の開催や地域説明会の実施を経て、様々なご意見がある中で、その方向性を決定する時期に来ていると考えておりまして、今日はぜひ忌憚のないご意見をいただければと思いますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。ご挨拶かえさせていただきます。

(小松主監)

室戸市総合教育会議の構成員は、市長及び教育委員会と規定されております。会議次第の 1 ページに名簿を載せておりますのでご確認ください。また、本日はオブザーバーとして濱田総務課長、辻こども子育て支援課長にご出席をいただいております。よろしくをお願いします。それでは 2 番の議事に入ります。(1)室戸市教育振興基本計画における令和 5 年度事業実施計画について事務局より説明をお願いします。

(山本教育次長兼学校教育課長)

(資料に沿って説明)

(小松主監)

ありがとうございました。それでは、令和 5 年度事業実施計画について協議をお願いしたいと思います。ご意見のある方はをお願いします。

(植田市長)

教育委員の皆様方は毎月 1 回学校現場に行ってるんですか。

(小松主監)

そうではないです。

(植田市長)

学校現場へ行かれて気が付くことなんかがあって、こんなこと取り組んでいったらいいのになんていう視点で、この計画の中になんかようなことがあったら参考にはなりますし。かなり密に担当がまとめてくれていますので、地域のいろんな声があったりとか、問題

があつたりとかすようなことで、ひろえてないような課題があれば。

(小松主監)

和泉委員さんなにかないでしょうか。

(和泉委員)

学校現場には、適宜必要に応じて行っています。定期的ではなくて、佐喜浜ですけど。その時に思うのは、先程の定例会の時も申しましたが、教職員のカウンセリングといいましょうか。児童生徒のカウンセリングは充実されて、保護者の方、子どもさんたちも、何かしら改善されている。でも、教職員へのカウンセリングっていうのは、学校現場でどのように行われているのかなっていうことを思います。学力の向上とか不登校対策にしても、私が思うには、そこで働く教職員の力量といいましょうか、そういうふうなのも基本あるし。教職員のカウンセリングが必要であれば、カウンセリングをする機会があればなっていうようなことを思います。っていうのは、学校現場で、校長サイドで話ができるのも限度があるかなと感じます。他にも一杯あるので、どこから話をしたらいいのか。コミュニティースクールにしても、佐喜浜は室戸市で先駆けてしているわけなんですよ。協働本部が先ですよ。

(小松主監)

そうですね。

(和泉委員)

協働本部が出来た時、本当に地域がさあやろうになったけど、だんだん、学校があまりに協働本部の人に、ボランティアに頼り過ぎちゅうところがあるみたいのところがあつて、協働本部の会があつても出席はいいわいうような方も時々聞きます。だから、学校と協働本部の兼ね合いついていう、それからコミュニティースクールもできて、メンバーもやっぱり、佐喜浜はすごくいいと思います。メンバーを選出するときも、教育委員会に相談されたいような場合もあるかなっていうようなこともあります。まだ一杯あります。不登校のこと、定例会で主監にお伺いしましたら、改善されているというふうなことを伺いました。教育委員会が行っている各学校への手立て、室中でしたら適応教室も設置されましたよね。それもそこで生徒さんが通われているっていうふうなことを伺って、いいほうの傾向に行っているなということも感じます。

(小松主監)

他にご意見ないでしょうか。

(多田委員)

はい。1点目がですね。(1)保育内容の充実のところでのパステル児童への加配保育士さんですが、今足りてますか。前と比べて人数がずいぶん増えてるみたいですけど。1人の指導員が1人か2人の児童についていたのが今、4,5人結構な数みたいで。

(植田市長)

先生の対応せないかん数が増えているみたいな感じかな。

(辻こども子育て支援課長)

今年度の実施の状況なんですけど、佐喜浜保育所で認定を受けている子どもさんが2名で、1名について加配保育士が1人ついている状況なので、2名の子どもさんに対して2名の保育士がついています。むろと保育園も3名の子どもさんに対して、加配保育士が3.2名、誰かお手伝いいただきながらと、という体制でやっています。元保育所が2名の子どもさんに対して加配が2名となっています。それぞれ必ず1人に1人はついていきます。

(多田委員)

小学校のほうはどうでしょうね。保育の時にパステルやった子どもさんは大概、小学校上がっても。

(百田教育長)

特別支援学級の子どもたちについては、その学校に1人でも対象の子どもがいたら教員が1人ついています。ただし、1人の教員がつく子どもたちが8人までになっています。ですから1人であっても5人であっても8人であっても教員は1人なんです。

(多田委員)

小学校は保育ほど手厚くないってということですか。

(百田教育長)

今まさにインクルーシブ教育っていうて、特別支援の観点の子どもたちも通常の学級でやろうという方向になってまして。県とか国に要望はしているんですけど、なかなか8人とかは。

(多田委員)

教科によっては教室へ入ってお勉強されている子どもさんもおいでますけど。異学年の子が一つの教室にいるので。

(百田教育長)

私もかつてやった時には、特別支援学級の子どもは6人、教員は一人なんですよね。ただ、他の県は特別支援学級が1人の場合は教員つけんがです。必ず他の学校と2名以上でないとつけませんよと。高知県は全部1人ずつなんです。ただ、8人という法律があるので、それを下げてくれということをやっています。

(多田委員)

先生が1人にしても、フォローする方を増やして。

(百田教育長)

市の方で特別支援教育支援員を置いて、校内の中でやっています。

(多田委員)

みんなに目が届くようにお願いしたいと思います。2点目は、室中の高台移転は統合するっていう風に路線が決まったみたいなので、説明会の時にもはっきりそれを言った方がいいと思います。まだわかりませんみたいになって言葉濁すよりか、後出しじゃんけ

んみたいなのをせずに、こうこういう理由で統合します。もうみんなうすうす感じているのに、まだ決まっちゃあせん、そんなこと言うきだまされるような気がして、なんか不信感があると思うので、はっきり言ってもらったらいいと思います。

(小松主監)

また次の協議にありますので。そしたら4ページでなにかご意見はないでしょうか。

(植野委員)

家庭へのタブレット持ち帰りの推進があつて、家庭でも使えるなと思うのが、この前、自由参観に行った時に、タブレットを使ってて、文字を書く作業をしてたんですけど、指で書いてたんです。タッチペンとかがあったら字もかけるので先生にないですか、と言ったら、予算がということでないということだったので、タッチペンがあった方がやりやすいと思うので、購入とかお願いしたいです。

(高崎班長)

タッチペンについてですが、今年度予算化しておりまして、業者さんの方に買う段取りはしてるんですけど、小学校と中学校で欲しいタッチペンの種類が違ったりとか、あとは持ち帰りについて、タッチペン結構故障のもとになって、置いたままたらディスプレイが割れたりとか、いろいろあるので学校で指導してもらいながらになりますけど一応買う予定です。

(植野委員)

わかりました。ありがとうございました。

(和泉委員)

3ページの学校教育の内容の充実というところです。教職員の資質・指導力の向上のところと、情報と防災教育の推進・充実のところと、室戸市内の中学校区の何を令和5年度主にするかってことはこれで出されてて、各校に指定事業みたいな受けられてると思うんですね。去年もこれやったと思うんです。新たな不登校を生じない学校づくりということで、保小の連携とか生徒指導のことが多いとか、学力のことでの指導力の向上とか、推進とかそういう風なことは。

(小松主監)

先程、課長からもありましたけど、①の児童生徒の学力の向上で埼玉県版学力調査を室戸市内全部の学校で今年度実施します。埼玉県版学力調査は、個票が子どもの学力の伸びとか、非認知能力的な部分の経年もおさえていけますので、ここを学力向上の柱としてどう活用していくかっていう部分を今年度研究主任会等で打ち出していく予定です。

(和泉委員)

室戸市はこの埼玉県版を使って、児童生徒の経年の学力を見て、分析とかして学力向上対策を各学校としていく、そういう風に解釈してかまいませんか。

(小松主監)

はい。

(百田教育長)

今の国とか県の学力調査は単年です。埼玉県版はずっと卒業するまでいくので非常にいいと思います。

(和泉委員)

それともう1点、教育研究所の件なんですけど。外国語教育の授業改善に向けた研究っていうのは、具体的に研究所と各学校が連携して、小学校やったら学級担任の学習をどう進めていくとか、研究員が教育を推進するっていうようなことをしているんですか。

(小松主監)

小中のつながりを意識して取り組んでいます。

(和泉委員)

今年の研究員の方はそういうふうな業務も担っているんですね。

(小松主監)

はいそうです。

(多田委員)

室戸なんか生徒数が少ないじゃないですか。平均点っていうのはあまり意味がなくて、それなら標準点というのを設けて、これぐらいの点数が望ましいっていうことにしないと、例えば2人しかいない学校で、100点の子と0点の子がいたら絶対50点やし、あんまり平均点っていうのは意味がないけど、今それですと学校の学力を測ってるみたいなので。

(百田教育長)

市全体では、つっこみでやってるんですけど、どこも正答率どうこう抜きにして一人一人にやるようにしています。市の平均正答率は全部子どもたち50人60人でやるんですけど、各学校はそれぞれ結果が戻ってきたら放課後に指導したりとか、子に応じた指導をしています。

(和泉委員)

全国学テあるいわ県版学テの実施体制を教育委員会が把握しておいたらなと思います。例えば担任一人ですしてるのかとか、2人制で実施しているのかというようなことを。

(植野委員)

以前学校訪問で佐喜浜小学校か中学校に行った時に、佐喜浜の文章を毎日作ってっていう勉強方法を継続してやられているそうで、保護者の方からも佐喜浜の勉強法、学校は独特の勉強法をされているので、学力につながっていると私は思っています。吉良川にはそんなのがなくて、毎日宿題も同じ宿題になっていて、その文章とか作文っていうのは、1学期に2、3回ぐらい。宿題として、授業ではやってるかもしれませんが、ちょっと少ないなと思って。実際あまりその作り方とかを理解してないところがありまして。家で教えたらいいいんですけど、できれば学校の方で、先ほどの佐喜浜の勉強法を取り入れて、他の学校でもしてもらえたらいいんじゃないかなと思いました。

(小松主監)

佐喜浜小学校、中学校校区が、高知新聞のNIEの指定校になってまして、そういう面で言ったら、県からの手厚い補助があるのでやってる部分もあると思います。

(百田教育長)

高新と毎日、朝日、日経の新聞を一定期間毎日無料で送ってくれるんです。その社説らは写したりとか、コラムの背景の掘り方とかやっています。

(和泉委員)

高新行って、佐喜浜小中でそういう指定を受けているということで発表もしましたよね。今、生徒指導的なことの学校でもね、埼玉県版学力テストで一人一人の経年の伸びがわかるけど、さっきお話があったように、この学校でこれをすると、例えば作文教育すると、じゃあここの学校はいう風に各学校の特色を決めて推進していったら、室戸市全体から見たら、いいところとれるていうか、みんな同じことするんじゃないくて、そういう風な学習。

(植田市長)

いいところどりできたらいいということですね。

(百田教育長)

それぞれの校長先生のご判断で。NIEもやってますし、小学校5年6年生から英検を受けるだけの予算をとっています。

(和泉委員)

学校に任すのはすごくいいことやけど、不登校を生まないも大事なことですよ。でもそれはすごく大きくなって、それはそれでやって、先程小学校が取り組みますというたら1本の学習面での柱ができるかなっていうことを思います。そして、佐喜浜やったら、NIEのことでの子どもの文章表現とか、新聞を読み解く力とか、ここの学校やったら、すごいスポーツのことするとか、あるいはこれから先の小学校の外国語教育を、ここの学校がモデル校として充実さすとかっていう風なことをしよったら、室戸市全体から考えた時にいろんなモデル校ができるんじゃないかってそういう風に思います。今度、中学校が統合した時に、そこの学校で身につけてきた子どもたちが、同じように、相乗作用っていうか互いの学び合いがそこでできるんじゃないか。ここの学校はすごく伝統芸能をやってきたっていうふうに。みんなが同じような指定を受けたら、どっかの伸びる力というのがもったいないかなって。学校が主体的にここをうちはするっていうことをしっかりと持ちよったらいいなど。

(多田委員)

昔から国語に長けた先生がいらっしゃるところは、作文とか入選する子が育ったり、美術に長けた先生の時は、県展に入選したりとかか、そういうのに長けた先生がいて、さっき和泉委員さんがおっしゃったようなカラーっていうのがあればいいんですけど、残念ながら異動があるじゃないですか。そしたら、その先生がいなくなったら、せっかく

そこまで育ってきたのに、次の先生にそういう能力なかったら、消えるんですよ。そこらへんが学校として取り組むっていうのは難しいんじゃないですかね。

(和泉委員)

けど、それは組織として取り組むので。今チーム学校ということが言われているので。この先生がおらんかったき、ここはできんじゃないくて、外部講師っていうのがある。

(百田教育長)

今の和泉委員のご意見を支えるものとして、やっぱり予算がいるんですよ。これは市長にお渡していただいて。

(和泉委員)

あっちこっち市では市長がしたいことたくさんあるので、どこにフォーカスするかっていうことをせんと、財源が決まっているので。自分らも一杯したいことがあって、収集がつかなくなるき、これを優先的にしょっていう風なことで。だから学校現場もどれをまず優先せんといかんかなって各学校が優先順位をつけて。

(百田教育長)

例えば吉良川保育所、小中の連携に40万か50万予算をとってあります。保育所、小学校、中学校で話し合いをして、こんな力をつけよう、こんなことをしようということ、予算の使い方を校長先生にお願いしてあります。今までも教育委員会から要望して削られて決まったものだけ使おうじゃなくて、予算の裁量も保小中に委任をして、そのかわり厳しい評価をされるんですけど、その中で15の春の時にやれるようにということ。

(和泉委員)

予算の使い方は検証されてると思います。力になるような。

(百田教育長)

校長先生がやりやすいように、2年目になるのでその評価をきちっとせないかんと。

(小松主監)

学校教育では白熱しておりますが、生涯教育の、4ページ、5ページも合わせてご意見いただけたらなと思います。

(植野委員)

放課後子ども教室のことですが、去年の夏休み吉良川の方は指導員不足だったということですが、今年もそんな感じですか。

(原山班長)

生涯学習課の原山ですが、子ども教室担当になります。昨年ご指摘の通りありましたので、本年度におきましては、昨年度の反省を踏まえて、8月から学校の支援の方がお休みに入られるということもありました。その方と協力して小学校及び公民館での開設の方を、日程調整をして校長先生ともお話をして8月の開設は滞りなくできるように進めております。9時から12時の午前中ということにはなりますが。

(和泉委員)

佐喜浜はいかがですか。

(原山班長)

佐喜浜は例年開けておりまして。

(和泉委員)

休みがあるみたいなことを聞いたんですけど。

(原山班長)

それはコーディネーターさんとか支援員さんの都合によって休みがあることもあります。基本的には、午前中、1日空けられてると。今から8月日程表とか、まだシフトとかこちらの方まで来てませんので、日程はありませんが、例年は夏休みの期間もずっと開けています。

(和泉委員)

休みがあるって聞きましたけどね。去年もあったんじゃないですかね。

(原山班長)

何日間かぬけるのはあったかもしれませんが、一定まとめて休むというのは。支援員とか学校の関係でぼつぼつ休むことはあるかもしれません。

(和泉委員)

1週間休むということは。

(原山班長)

1週間休むということはないと思います。今年度どんな予定かわかりませんが。

(小松主監)

生涯学習課についてはないでしょうか。

(和泉委員)

文化芸術フェスティバルに何年かぶりに行って、すごい衝撃受けて、すごいパワーをもらったというようなことを何人もから聞きました。

(和田生涯学習課長)

ありがとうございます。

(多田委員)

前回もおんなじことを言って、一刀両断すぐ却下されたんですけど、奨学金の貸与じゃなくて、給付制度っていうのもぜひ検討していただきたいです。

(和田生涯学習課長)

もどさんでもいいということですよ。

(多田委員)

今、室戸に帰って来て就職するならっていう条件付きではあるみたいですけど、給食費の無償化もずっと言ってきて、やっと無償化にこぎつけたように、これもずっと言い続け寄ったらいつか給付型のができるかなと思って。却下されても来年も言います。

(植田市長)

一定帰ってきてくれる条件を撤廃したらということやけど、学校へ行けるという方がおったとしても、市民の税金からということで、こっちへ帰ってきてもらいたいんじゃないかな。

(多田委員)

帰って来てもらいのはやまやまですけど。帰ってこなくても、自分が学びたいところに行って学んで、それを生かしての職業っていうのは室戸にはない、活かせないとかいうときでも、そうなったら同じ室戸の子なのにと想着。

(植田市長)

どこでも貢献してくれたら、室戸の出身だからということもあるかもわからんね。

(多田委員)

長い目で見たら、そのうち室戸に貢献してくれるかもしれんし。

(植田市長)

中長期的に検討してみないかんね。

(百田教育長)

今年度からですかね。奨学金の金額を上げて。条件があるんですけど。今所得制限なしなんですよね。

(和泉委員)

室戸高校に手厚いので、私はもう十分かなと思います。というのは県立高校にお金出しているし。

(植田市長)

社会問題になってるわね。

(和泉委員)

理想のことやけど、財源がね。

(多田委員)

地元の高校にぜひ残ってほしいってことで手厚くされゆうがやと思いますけど、本来ならば、金銭的な援助じゃなくて、室高自体に魅力があれば1番問題ないわけで。市外からも来てくれるぐらいの。

(百田教育長)

今総合学科が全国的に見直されて、一人一人の希望する進路への学び方、それが評価されて。

(多田委員)

女子野球が頑張っているの、盛り返してきゆうとか。

(総務課長)

予算が教育委員会の方から上がってきたら、将来的な室戸市の財政状況を見据えたいので、査定をさせていただきます。

(小松主監)

いろいろご意見ありがとうございました。次に進みたいと思います。協議事項①保育所及び学校適正規模・適正配置実施計画（案）について事務局より説明をお願いします。

（山本教育次長兼学校教育課長）

（資料に沿って説明）

（小松主監）

それでは、協議をお願いしたいと思います。ご意見のある方はお願いします。

（多田委員）

最近、記憶力が怪しくなってきたんですけど、前に聞いた時には、完成次第、室戸中学校は移って、それから年度始めに他の中学校が順次って聞いたような記憶があるんですけど。これを見たら新年度で一斉にスタートということになってますけど、方針変わりましたか。

（植田市長）

全体的な事業がずれて来ていることもあって。

（多田委員）

地域の方たちから何しようら、子どもの命が一番大事やろうというのはさいさい言われておりますので。

（山本教育次長兼学校教育課長）

当初の基本計画の段階では、令和7年度に校舎ができて、先に室戸中学校が移って、その後で令和8年度から他の中学校を統合していくという計画で説明させていただいておりました。実施計画の前の基本計画ですね。その後、施設の高台移転の計画を作る中で、令和7年度に校舎が完成するっていうスケジュールがなかなか難しいということになって、令和9年度に施設ができて令和10年度からその施設が使えるという、スケジュールに見直しを行いました。スケジュールが遅れてきたというようなところもあって、先に室戸中学校が行って、後から他の中学校を統合するという形よりも、令和10年から一斉に統合中学校としてこうスタートするという方向性が出てきたところです。今回の統合につきましては、対等での統合ということですので、室中に吸収するっていうことではなくて、4つの中学校が対等に統合して新しい中学校になるというイメージということです。

（多田委員）

時期が遅れるのは残念ですけど、そうやって一斉スタートっていうのは、いいことやと思います。室高と一緒に使うがやとか、いろんなデマが巷で流れているので、そこらへの修正を。

（山本教育次長兼学校教育課長）

室校のところも説明させていただきたいんですが。当初の検討委員会の段階から室校を、共有できんかっていうような意見はあったところなんですけれども。その後、県の教育委員会と、現場サイドで、委員会の職員と室校の先生先生とかで協議をする中で、多く

の方が、室校の教室が生徒が減っちゅうんで空いちゅうがじゃないかと。そこは入れるがやないかっていう話もあったんですけど、学校の話を知るとです、総合学科で生徒が減ったとしても、生徒がいろんなコースを選ぶようになっちゃうがですよ。少人数でもいくつかに分かれて教室を同じ時間帯に使うということで。現状ではそんなに教室が空いてないっていう話もお聞きしたところです。あと、中学校はあの中に入るとしたら、今の高校にはない技術室とか、特別支援学級、あと給食の受配施設とか、職員室についても、中学校と高校っていうのは分けるべきっていうところもあって、そういった新しい施設の設置も出てくるということで、教育委員会の方としたら、室戸高校を共有させていただいて、そこに中学校が入るっていうのは、難しいということで判断したということです。

(多田委員)

県立と市立との違いもありますか。

(山本教育次長兼学校教育課長)

そうですね。県立、市立の違いというか、施設の使える状況というのが、今の室戸高校の使い方と、そこへ中学校が入って使うってなった時に、なかなか教室数が確保できないとかですね、そういったところがあって、室戸高校ではなくて、その周辺のところで、新しい学校を建てるというような方向で今動いているところです。

(和泉委員)

ちょうど一年前に総合教育会議に初めて出まして、その時に賛成か反対か聞かれたんですよ。中学校1校では、その学校へ行けなくなっただ子どもをどう受け入れてくれるかというような話して、その時に賛成か反対かやけど聞かれたような記憶がある。一年間なってきたら決定ということになって、これで進むということなんですよ。進むとなったらよりよい方向に行かないかと思ってます。やっぱり中学校1校になる時の保護者さんのいいところ、大丈夫かなと思うところを、きちんと報告されると思うんですけど、佐喜浜ではかなり意見が出ました。1年前に。それまでに今の保護者のアンケートをとってくださいという意見が出て。教育長は決まってからのアンケートっておっしゃったので、そうかなと思ったんですけど。1年前の後に、何人かの保護者さんにどんな意見を持ちゅうかみたいな話も聞いたけど、結局市が決めた、統合が決まったっていうことをはっきり言うた方がいいと思う。

(植田市長)

方向としては決まりましたけど、それに対してなにかご意見ございませんかと。統合になった時の問題点とか、心配点の意見を聞いて、それで改善させていくということの方か、前に進むような気がする。

(和泉委員)

もうどっちかの選択しはないという風なことで進めるということですね。

(植田市長)

そういう方針で行こうとしている説明やね。

(和泉委員)

地域の説明会をするときに、もちろん資料も持って行くと思います。これを持っていきますか。

(山本教育次長兼学校教育課長)

この実施計画案とこの計画の概要版というか、わかりやすいような形の資料を持っていこうと考えてます。

(和泉委員)

もし仮にこれを持っていかれるんであったら、8ページ「佐喜浜中学校学級数や教職員数の減少により教育課題が顕著にみられます」とあるわけです。で、令和4年度の学校関係者評価を見たら中学校いいんです、評価が。佐喜浜中学校に行きゆうき、うちの子はこうやっておれるっていうご意見の方が結構多いんです。教育課題が顕著に見られまず、って書いたら、あの学校関係者評価は何やったろうかと。

(多田委員)

羽根もおんなじこと書いてます。

(和泉委員)

これこのままやったら、多分どういうことですかあってあると思うので、そこを答弁できるようにしちよかないかんと思うし、佐喜浜の学校関係者評価、「知・徳・体」ってあるんですけど。具体的にその学校でどんな課題があるかっていうことを委員会が把握しちよかないと、説明会に行った時にどんなことですか、顕著な課題って、ていう風なことがぼやけてくるかな。

(百田教育長)

人数が少ない学校も、一生懸命やってくれています。けれども先生方の努力とか子どもたちの努力では解決できんものがたくさんあるんです。9ページにあります、この逆のことが先生方の努力とか、子どもたちの努力では解決できないものなんです。小学校は地域で育てる、中学校は同世代の子どもたちで育てるといふ、そういうことがあるので。資料はわかりやすくします。

(和泉委員)

ちょっと表現を変えたほうがと思います。

(多田委員)

言わんとすることはわかりますけど、もう少し表現を。

(小松主監)

他にご意見ございませんか。

(多田委員)

4ページの適正な学校規模の考えた方を見たら、小学校、これに適合するのは室小しかないですよ。いずれ小学校も全部統合ですか。

(山本教育次長兼学校教育課長)

現時点では、小学校は適正規模に至ってななくても地域へ残すっていう方向性を示します。今後の状況によって検討せないかん状況が出てくるかもしれないが、今の時点では統合はしないという方向性にしています。ただ、元小については津波が発生した時に、危険な状況にあるんで、令和7年をめどに室小に統合できないかっていうところを検討していきたいというところは、謳わせてもらっています。小学校は基本的には統合しないということです。

(和泉委員)

守りばかり言うんじゃないで、保護者さんと話しゅううえで、一杯疑問があるわけですよ。それを納得できる形で教育委員としてお答えしたい。

(小松主監)

それでは、次に行きたいと思います。グリーンカーボンの取組についてその他の協議です。市長お願いします。

(植田市長)

国が2050年までにカーボンニュートラルを目指していて、その手前2030年までにカーボンニュートラルの先行地域を指定するという国の制度を進めています。もうすでに3回のその攻防があって、64自治体が認められて、その選考地域として決定されています。国は今年度中に100の自治体を決めるということで、8月に4回目の攻防をやる予定です。それに室戸市は手をあげて先行地域になるための段取りを進めてるんですけど、進めゆう中の1つの施策として、グリーンカーボンという山の木のいわゆるCO₂を吸収するという力をアピールするために、室戸市は備長炭が日本一の生産量なんやけど、その原木の収集が困難になってるということの背景も合わせて、できたら小学生の5、6年生にどんぐりを植えて、苗を育ててもらって、中学出る頃に山にうまめの木を

してもらおうという仕組みができないかなと。そうすることで、20年、30年経ったら室戸市の全員がうまめを植える経験ができる人が育ってくることによって、ふるさと室戸への思いにもなるし、カーボンニュートラルに貢献する先行自治体としての今の時点では評価に繋がっていくのじゃないかなということで、子どもたちのことですので、小学校の中で、行政だけではないけません。民間の方々だとか、森林管理事務所だとか、国も県も一緒になって、そんな仕組みを作って、申請書の中に書き上げていきたいということを考えています。それができるかできんか、これから教育委員の皆様方のご意向も聞きながらですけど。一つは国から環境のための環境譲与税が出てますので、そんな資金を使って、それを運営する、取り組むためのNPO法人なんかを立ち上げながら、行政と民間と国と県が一緒になって、といった取り組みができるような室戸の、いわゆる、新しい取り組みが始められないかなと考えてまして。それが、子どもたちのためにいいのか悪いのかというも合わせて、いろんな形でご意見もろうて進めていけるように力を貸していただきたいというご相談の趣旨です。

(小松主監)

この件について、ご意見ございませんか。

(多田委員)

健やかな木を育てるためには、まず間伐ってということからせんと。

(植田市長)

一番残念なのが杉の木をうえて間伐の対応できるところはえいけど、皆伐ゆうて全部切るところがいっぱいあるき。全部切ったあとに植林を全部ようせんわけよ。採算があわなくて。市は応援もしてるので、民間の負担になるところは応援もしますけど、って作ってるんですけど、なかなか杉、ひのきを植えても、50年後、今みたいに赤字になるんじゃないですかっていうようなことで、植えようとする体制ができてない。そんな山がいっぱいあるので、できたらもう杉、ひのきを植えるやのうて、うまめとかかしとか、広葉樹を植えるようなことを考えていくのがよくないかなと。備長炭の原木にもつながるのでうまめやったら一番室戸市としてはいいかなと。

(和泉委員)

それってJプロジェクトですか。なんか、聞いたことがあって。そのカーボンニュートラムっていうのを、ずっと前から言われよって、各自治体ではあげちゅうというのは聞いたことがあります。今グリーンカーボンって言うたけど、せっかく深層水があったらブルーカーボンもありますよね。

(植田市長)

ブルーカーボンも申請書にあげてます。

(和泉委員)

どこにあげてます。

(植田市長)

ブルーカーボンは海洋深層水で海藻を育てて。今磯焼けで大変なわけよ。深層水が海藻の成長を促すので、そこでたくさん作ったものを海に戻して、海藻の生えるような町づくりをこれから5年、10年かけてやっていくということで、海藻ができると、ブルーカーボンって言われる、山の木よりも回数が4倍ぐらい吸収力があるという風に言われてるんやけど、そういったところもやると。

(多田委員)

両方ですか。

(植田市長)

両方です。

(和泉委員)

それを学校教育に持ってくると。それは今の構想の多分一部であると思うので、もうちょっと具体化してから、たぶんこれはJプロジェクトって言うがやけど、それは指定しました、それを受けた後にどう考えていきたいと思いますっていう風なことも言われてます。

(植田市長)

室戸はできても都市部なんかの工事の多いところは絶対0にならんきね。

(和泉委員)

学校教育の中でどういうことができるかっていう風なことを、これからももっと具体化していったらと思います。

(百田教育長)

山の学習を市内の学校かなり小学校やっているの、その中の活動の一つにして、既にやっておることなので。

(和泉委員)

総合的な学習の中に取り組むとか、そうしたら無理がない。学校今一杯せないかんき。高校やったら総合的な探究って言う風な言葉になっちゅうですよ。例えばこんなこととで出しゅうき、室戸高校にちょっと、って言う風なことも考えて。

(百田教育長)

羽根小学校であれば山の学習を何年かやってきゅうので、その計画の中にこういったものを入れていくというのは検討したらと思います。

(小松主監)

ご意見ありがとうございました。続いて次回の総合教育会議の開催時期について事務局からの提案をお願いします。

(山本教育次長兼学校教育課長)

次回についてはまだ確定はしておりません。去年は8月に開催をしておりましたが、今年1回目の会が6月になってますので、検証させていただいて、また後日ですね。次回の日程についてお知らせさせていただきたいと思います。

(植田市長)

時間をもうちょっと長くした方が。

(山本教育次長兼学校教育課長)

そうですね、わかりました。

(小松主監)

他に事務局からなにかないでしょうか。それでは、本日の議事を全て終了させていただきます。以上で令和5年度第1回総合教育会議を終了いたします。